

2、額田地域の各コミュニティバスの見直しの方向性について

	現状運行の課題	課題に対する対応策案	対応策案に対する利用者への		最終的な見直し案 (○決定事項、△検討事項)
			メリット	デメリット	
豊富・夏山地区線 (ほたるバス)	・通勤・通学利用で早朝の時間帯に利用希望あり (全世帯アンケートより)	・くらがり線本宿行きに接続する早朝の便を運行する。	・高校生が利用すると、自家用車で送迎する家族等の負担が減少する。		△乗り継ぎに抵抗があるため、まずは地域負担も視野に、夏山学区内から本宿までの交通手段の運行を検討(夏山学区) △利用に慣れた段階で、早朝便の運行を検討(夏山学区)
	・金曜日の利用が少ない。 年間 72 人(0.71 人/便) ・火曜日の午後便の利用がない。 年間 0 人	・金曜日の運行及び火曜日の午後便の運行を取りやめる。	・利用されていない便を新たな利用が期待できる便に、振り替えることが可能となる。	・金曜日の便及び火曜日の午後便が利用できない。	○火曜日の午後便の運行は取りやめる。 (豊富学区) ○回数券購入等の利用促進を図ることで、金曜日の運行は維持する。(豊富学区) ○火曜日の午前便の運行を維持(2学区共通) △維持する運行のダイヤを検討(2学区共通) △日中の時間帯に、くらがり線との乗り継ぎができる便を検討する。(豊富学区)
宮崎地区線 (のってこバス)	・千万町地区(北部)で、くらがり線への乗り継ぎ希望あり (全世帯アンケートより)	・千万町地区の方が、くらがり線に乗り継ぎができる運行とする。	・千万町地区の方が、くらがり線に乗り継ぎができる。	・大雨河地区(南部)の方は、くらがり線への乗り継ぎができない。	○大雨河地区の方が、くらがり線に乗り継いで本宿へ行く需要はないため、千万町地区の方が、くらがり線へ乗り継ぎができる運行とする。
	・診察後、帰りのバスの待ち時間が長い。 (診療所アンケートより)	・診療所行き帰りともに 2 便ずつとする。	・帰りのバスの待ち時間が短縮される。 ・診療所への行き帰り便が選択できる。		△診療所行き 2 便、帰り 2 便の運行ダイヤを検討 ○木曜日の運行を取りやめ、月・水曜日の運行は維持する。 △維持する運行のダイヤを検討
	・木曜日の利用がほとんどない。 年間 12 人(0.12 人/便)	・木曜日の運行を取りやめる。		・木曜日の利用ができない。	

※利用状況は、平成 27 年度(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)の期間で算出しています。

※対応策案毎に運行経費等は増減しますが、直接的な利用者へのメリット、デメリットとは繋がらないため、記載していません。

	現状運行の課題	課題に対する対応策案	対応策案に対する利用者への		最終的な見直し案 (○決定事項、△検討事項)
			メリット	デメリット	
形埜地区線 (乙川バス)	・一色平・大沼地域の利用がない。 年間〇人	・切山公民館口～上一色平区間を取りやめる。 ・切山・小久田ルート及び毛呂ルートを繋げた運行とする。	・切山公民館口～上一色平区間以外の切山・小久田ルート及び毛呂・井沢ルートの運行について、週2日から週3日に増やすことができる。	・切山公民館口～上一色平区間は利用ができない。	○切山公民館口～上一色平区間の運行を取りやめ、他地区の運行を週2日から週3日に増やす。 ○切山・小久田ルート及び毛呂ルートを繋げた運行とする。 ○取りやめた区間は将来的に利用需要があれば、運行を検討 ○運行曜日は月・火・木曜日 △各ルートの便数・運行ダイヤを検討
	・通勤・通学利用で早朝の時間帯に利用希望あり (全世帯アンケートより)	・岡崎げんき館行きのささゆりバスの便へ、乗り継ぎができるように、形埜学区内から早朝の便を運行する。	・桜形線よりも安く、岡崎げんき館まで行くことができる。 ・自家用車で、高校生を送迎する家族等の負担が減少する。 ・ささゆりバスの利用者も増加する。		△利用意向のある高校生がいるため、早朝便の運行を検討
下山地区線 (ささゆりバス)	・診察後のバスの待ち時間が長い。(診療所アンケートより) ・診療所からの折り返し便の1便目の利用が少ない。 年間3人(0.03人/便)	・診療所行き帰りともに2便ずつとする。 ・折り返し便の1便目を取りやめる。	・帰りのバスの待ち時間が短縮される。 ・診療所への行き帰り便が選択できる。	・診療所を発着する曜日と、他の曜日とダイヤが異なるため、分かりにくい。 ・折り返しの1便目が利用できない。	○運行曜日は月～金曜日 ○折り返し便の1便目のダイヤを変更し、診療所行きは1便、帰りは2便とする。 ○最終便のダイヤは変更しない。 ○取りやめを検討した便は運行を維持 △取り決めた便以外の便の運行ダイヤを検討
	・最終便の出発時間が早いため、利用しにくい。 (ささゆりバス委員会の協議より)	・1便を取りやめ、最終便の出発時間を遅らせる。	・今まで利用できなかった方が利用できる。	・現在の利用者の帰宅時間が遅くなる。 ・取りやめる便が利用できない。	
	・他のバスへの乗り継ぎが、しにくい。	・乗り継ぎをしやすくする。	・今まで利用できなかった方が利用できる。		○乗り継ぎがしやすくなるダイヤとする。
共通 (※下山地区線は、学区内全てがフリー乗降区間であるため、対象外とする)	・フリー乗降区間の拡大を希望する意見が多い。 (全世帯アンケートより)	・利用需要がある区間を、フリー乗降区間とする。	・自宅からバス乗降場所までの距離及び、時間が短縮される。		△利用需要がある区間を把握し、フリー乗降区間の拡大を検討

※乙川バスの利用状況は、平成27年度(平成27年4月～平成28年3月)の期間で算出しています。

※ささゆりバスの利用状況は、平成27年5月18日～平成28年3月の期間で算出しています。

※対応策案毎に運行経費等は増減しますが、直接的な利用者へのメリット、デメリットとは繋がらないため、記載していません。